

# 誰でも楽しめる観光へ



セミナーにはNPO「観光推進機構」の中法人「日本バリアフリー」村元理事長が招かれ、

「ユーバーサルツーリズム(以下UT)セミナーIN奄美」が20日、奄美市名瀬の県大島支庁であった。行政や観光関係者など約60人が参加し、専門家を招いた基調講演やパネルディスカッションで、今後のマーケット拡大が見込まれるUTに対応したバリアフリー観光地づくりについて学習。年齢や障がいの有無などにかかわらず、一観光客としてもなす意識や誰もが使いやすい施設整備など、今後の対応について方向性を検討した。

「劇的な集客増を達成するためのバリアフリー観光」と題して基調

損失につながる」と強調した。

高齢者層の旅行は現在最も市場が動いてい

るが、一方で旅行先での行動を懸念して旅行をためらう人も多いと

旅行の楽しみが広がること

が、住民対象のおもてなし講座開設で外国人観光客への対応の必要性などを提言。「奄美

者層や子育て世代も利用を決断することが多く、全体として顧客が増加する」と指摘した。

また高齢者や障がい者は個人によって不自由な度合いも異なることから、「同行者次第

で『パーソナルバリアフリー基準』も変わり、行き先も異なる」と提言。できる限り多くの人が利用できる施設づくりの重要性を訴え

た。パネルディスカッションでは、3人がパネラーとして参加し、UTの現状と課題について討論した。自身も車いすを使っている「かごしまバリアフリー相談センター」の喜井郁子センター長は、「宿泊先の設備が車いす利用者の目線で整備され

## 大きなマーケットに

**利用者  
目線で施設整備、商品提案**

立場の目線に立った宿泊施設や旅行商品造成を提案した。

午後からは鹿児島県観光連盟の奈良迫英光葉に、沖縄県と差別化した地域全体の魅力を

つくつて発信すべきだ」などアドバイスした。

メモ

工夫された移動手段や宿泊施設を利用して、誰でも楽しめる旅行のこと。

ユーバーサルツーリズム誰でも参加でき

「障がい者の旅行には同行者も多い。総合すれば大きなマーケットになり、対応の遅れは

ユーバーサルツーリズムの現状と課題について討論したパネルディ

スーション

葉。年齢や障がいの有無などにかかわらず、